

## 平成 28 年度県民意識調査（第 2 回）結果概要

### 1 調査の目的及び集計結果の概要

#### (1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の平成 28 年度の取組実績の把握
- 運動を進めるうえでの課題の抽出や、その解決方策の検討

(ア) 調査対象者：県内在住の満 20 歳以上の男女 5,000 人  
 (イ) 調査期間：平成 29 年 2 月 24 日(金)～3 月 5 日(日)  
 (ウ) 有効回収数：2,769 件(回答率:55.4%)

#### (2) 集計結果の概要

成果指標項目	調査結果				H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	
災害の種類に応じた避難場所・避難経路の確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	<b>60.5%</b>	60.0%
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	<b>36.8%</b>	60.0%
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	<b>67.6%</b>	60.0%

成果指標項目	H26	H27(10月)	H28(9月)	H29(2月)	H32(目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合(※)	8.4%	10.4%	11.3%	<b>11.3%</b>	40.0%

※ 県及び市町の「防災情報メール」への登録件数を 20 歳以上の人口で割った数値 (H27 年度末 10.3%)

## 2 集計結果の分析等

この度の調査の集計結果について、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果指標とする行動をとっている人に見られる傾向などから、その数値を押し上げている主な要因、逆に伸びていない要因や課題などを探るため、前回の平成28年8月の調査と同様に、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員でもある、2名の有識者により、行動心理学並びに防災の観点からの分析等を行っていただいた。

(有識者) 広島大学大学院総合科学研究科 教授 坂田 桐子 氏 (行動心理学)  
山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏 (防災)

## 3 「みんなで減災」県民総ぐるみ運動に係る成果指標ごとの分析概要

### (1) 【行動目標】身の周りの災害危険箇所などを「知る」

成果指標項目	調査結果				H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	<b>60.5%</b>	60.0%

### ○ 災害の種類に応じた避難場所・避難経路の確認した人の割合の内訳 (単位: %)

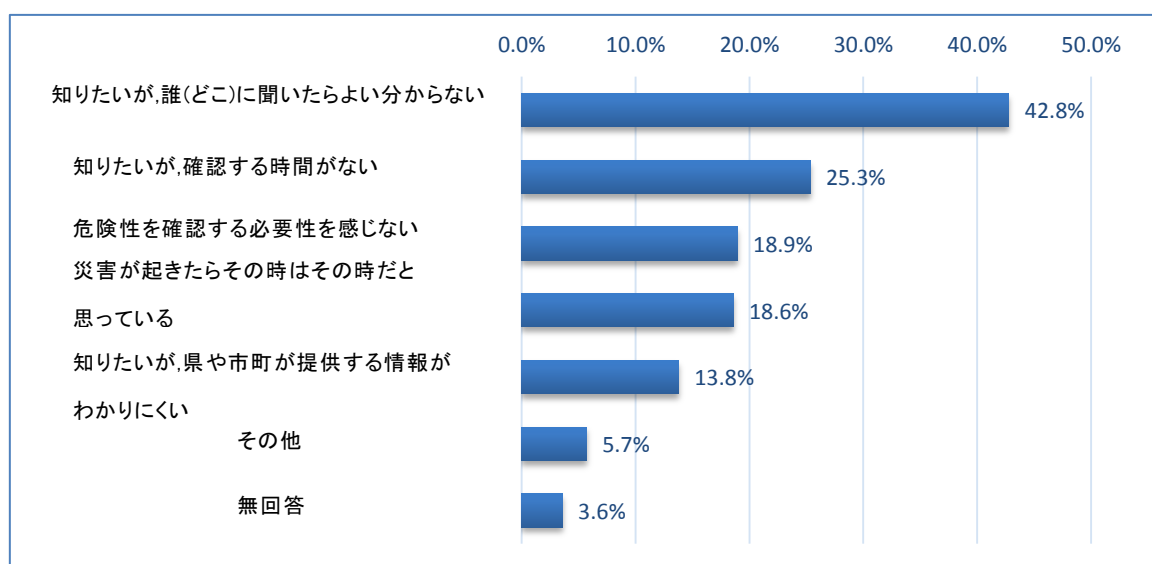
		全体	確認している	確認していない	無回答
全体		100.0	60.5	38.5	1.0
年代別	20代	100.0	40.9	58.8	0.3
	30代	100.0	50.7	48.8	0.5
	40代	100.0	63.7	36.0	0.3
	50代	100.0	60.6	38.5	0.9
	60代	100.0	65.0	33.7	1.3
	70代	100.0	67.1	32.4	0.5
	80歳以上	100.0	53.2	45.4	1.4
性別	男性	100.0	64.9	34.2	0.9
	女性	100.0	56.8	42.4	0.8
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	59.9	39.3	0.8
	自営業	100.0	55.6	43.0	1.4
	農林漁業	100.0	68.6	26.8	4.6
	家事や育児で在宅	100.0	61.2	38.8	0.0
	学生	100.0	44.6	55.4	0.0
	定年退職などで在宅	100.0	66.0	33.2	0.8
	その他	100.0	52.7	46.7	0.6

## ア 集計結果

- 確認した人の割合は、さらに伸びており、平成27年10月調査で最も低かった「企業・団体勤務者」を含め、どの生活形態（※1）においても、ほぼ平均値まで伸びてきている。
- 一方で、「住んでいる場所にどんな災害の危険性があるか知らない」人が、2割弱「16.8%（19.4%）」（※2）となっている。
- その理由は、「知りたいが、誰（どこ）に聞いたらよいか分からない」が最も多く、次いで、「知りたいが、忙しくて確認する時間がない」となっており、前者と答えた割合が高いのは、「家事や育児で在宅」及び「定年退職などで在宅」、後者と答えた割合が高いのは、「企業・団体勤務者」、「自営業」となっている。

※1 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児で在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

※2 「H29.2 調査数値（H28.8 調査数値）」以降同様



災害の危険性を知らない理由（問9）

## イ 有識者による分析等

- 避難場所・避難経路の確認を行っている人には、
  - ・ 「みんなが防災行動を行っている」と認識している
  - ・ 住んでいる町内の防災活動が活発である
  - ・ 「災害への関心」、「向防災態度」がある
  - ・ 「県民総ぐるみ運動」を知っているなどの傾向があることが、前回調査と同様に分かった。

## 《参考》H28（8月調査）の分析結果を踏まえたH29年度の取組

### 【テレビ・ラジオ等報道機関との連携】

～ 主に在宅の方を対象に、テレビ・ラジオ等を通じた広報活動などを実施し、『多くの県民が避難場所・避難経路を確認している』という事実や、ハザードマップやポータルサイト「はじめの一步」を活用した確認方法等を周知

### 【企業訪問】

～ 県内企業を訪問して経営者層に対し、従業員に身の周りの災害危険箇所や避難場所・避難経路を確認してもらうよう働きかけを行う。（H28年度～）

### 【「みんなで減災」推進大使による啓発活動】

～ フラワーフェスティバルや福山ばら祭などの大規模イベントに、推進大使に出演していただき、普段防災情報に触れることのない人達に対して気象・防災についての分かりやすい講演や、ポータルサイト「はじめの一步」の周知を行う。

### 【生活導線上での啓発】

～ 病院・歯科診療所、ショッピングセンター等でのハザードマップ等の掲示

### 【自主防災組織の育成強化】

～ 地域での支え合いなどによって、多くの県民の知ることにつなげるため、自主防災組織の育成強化に引き続き取り組む。

## （2）【行動目標】 災害発生の危険性をいち早く「察知」する

成果指標項目	H26	H27(10月)	H28(9月)	H29(2月)	H32(目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合(※)	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	40.0%

※県及び市町の「防災情報メール」の登録件数を20歳以上の人口で割った数値

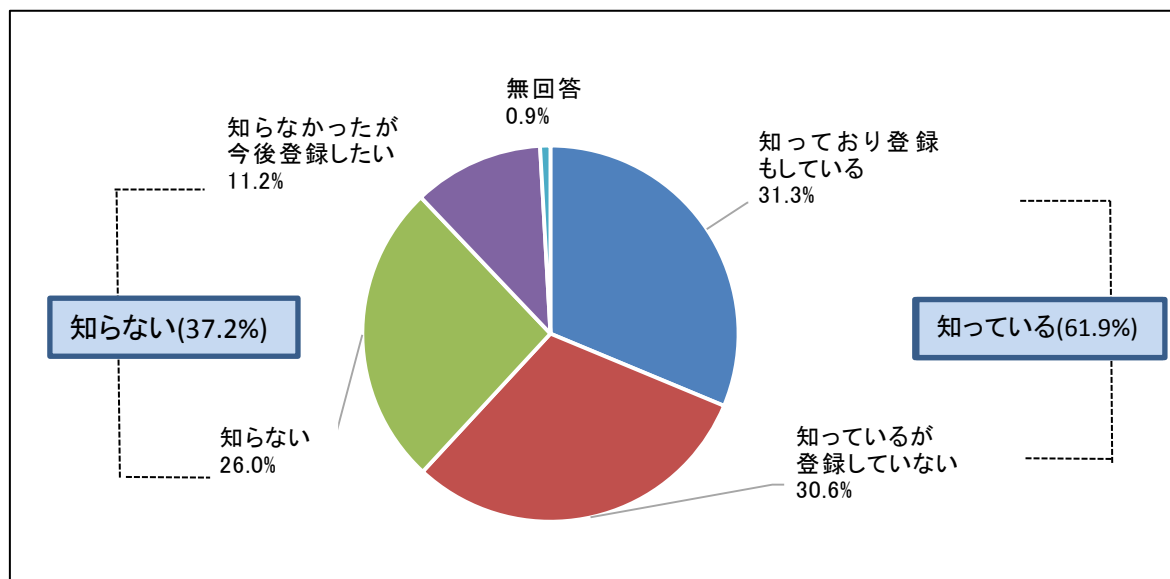
○ 防災情報メールの認知度

(単位：%)

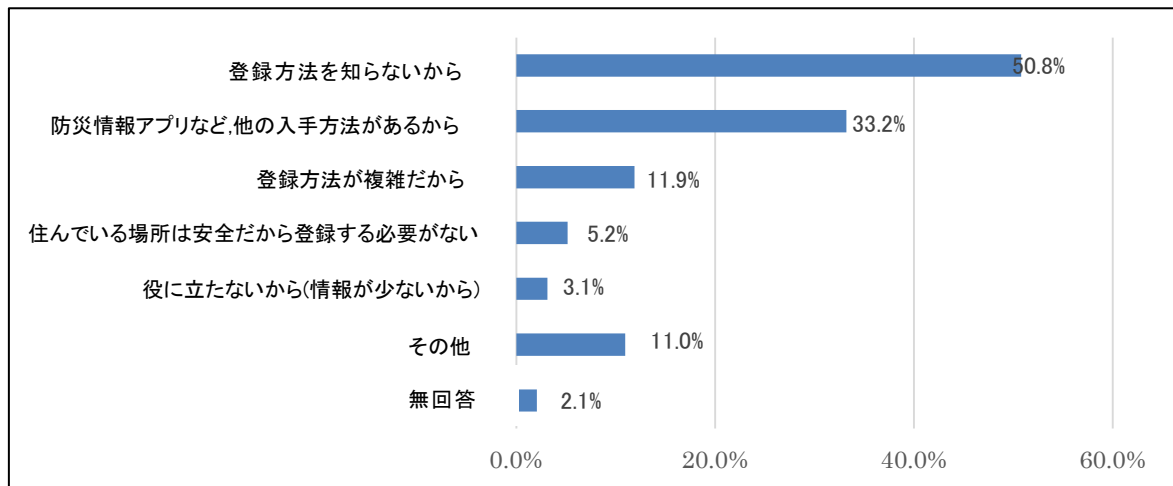
		全体	知っており、登録もしている	知っているが、登録しない	知らない	知らないが、今後登録したい	無回答
全 体		100.0	31.3	30.6	26.0	11.2	0.9
年 代 別	20代	100.0	14.2	27.5	48.7	9.6	0.0
	30代	100.0	27.8	24.7	33.0	13.9	0.5
	40代	100.0	38.6	26.2	19.2	15.5	0.4
	50代	100.0	35.0	32.8	20.7	10.7	0.7
	60代	100.0	33.5	35.3	21.3	8.1	1.8
	70代	100.0	25.1	37.3	29.0	7.6	1.0
	80歳以上	100.0	29.5	26.9	29.6	10.4	3.5
性 別	男性	100.0	28.5	33.7	28.3	8.8	0.8
	女性	100.0	33.5	28.1	24.3	13.2	0.9
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	31.8	29.4	26.2	12.2	0.5
	自営業	100.0	28.0	33.3	28.4	8.6	1.7
	農林漁業	100.0	26.8	35.3	26.6	8.1	3.1
	家事や育児で在宅	100.0	30.9	28.2	23.4	16.4	1.1
	学生	100.0	20.9	28.3	48.0	2.9	0.0
	定年退職などで在宅	100.0	28.9	37.3	24.1	8.8	0.9
	その他	100.0	41.6	26.7	27.3	3.0	1.4

ア 集計結果

- アンケートでは、防災情報メールを「知っている」割合は約6割「61.9%(46.4%)」で、そのうち、約5割「31.3%(28.5%)」が登録している。(全体の約3割)
- また、防災情報メールを「知らない」割合は約4割「37.2%(50.0%)」で、そのうち、約3割「11.2%(30.1%)」が登録したいと考えている。(全体の約1割)
- 上記を除く約6割の者の、登録していない理由は、「登録方法を知らないから」が約5割「50.8%(47.2%)」と、最も多い。



・ 県、市町の防災情報メールの認知度 (問 12)



・ 県、市町の防災情報メールを登録しない理由（問 13）

## イ 有識者による分析等

- 前回のアンケート調査と同様、防災情報メールを登録していない人の理由は、「登録方法を知らないから」が最も多くを占めていることから、登録方法の周知に取り組むことにより、登録者数の増加が期待できる。
- また、県・市町の防災情報メールの効用（他の防災情報アプリ等にはない効用）を生み出し、登録方法の周知とともにその効用を宣伝すれば、登録者割合の上昇が期待できると思われる。

## 《参考》H28（8月調査）の分析結果を踏まえたH29年度の取組

### 【企業訪問】

～ 県内企業を訪問して経営者層に対し、従業員に県、市町の防災情報メールを登録してもらうよう、働きかけを行う。（H28年度～）

### 【通信事業者による登録促進】

～ 通信事業者による、携帯電話の更新時を捉えた登録促進を行う。

### 【テレビ・ラジオ等報道機関との連携】

～ テレビ・ラジオ等の気象コーナーや情報番組等を通じて、県、市町の防災情報メールの存在を周知するとともに、登録の促進を図る。

### 【市町への働きかけ】

～ 防災情報メールについて、一人で登録することが困難な高齢者等に対しては、市町等の実施する防災イベント・防災講習や、地域行事などの場において、防災担当職員による登録支援などについて働きかけを行う。

### 【県の防災情報メールの機能の拡充】

～ 県民自らが、災害から命を守るために欠かせない情報の一括配信など、県の防災情報メールの機能の拡充を検討する。

(3) 【行動目標】 自ら判断して適切に「行動する」及び  
防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

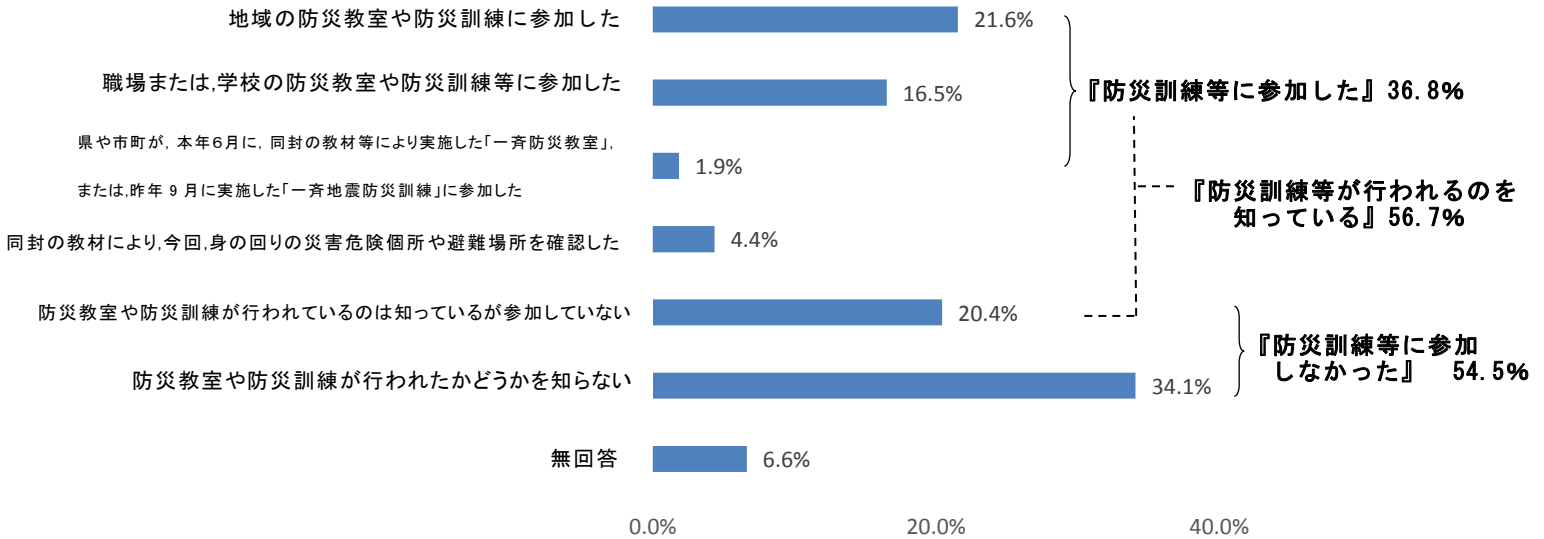
成果指標項目	調査結果				H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	<b>36.8%</b>	60.0%

○ 防災教室・防災訓練へ参加した人の割合の内訳 (単位：%)

		全体	参加した	参加していない	無回答
全 体		100.0	36.8	56.1	7.1
年 代 別	20代	100.0	38.7	59.3	2.0
	30代	100.0	32.4	64.5	3.1
	40代	100.0	40.1	57.7	2.2
	50代	100.0	39.5	54.9	5.6
	60代	100.0	37.5	55.6	6.9
	70代	100.0	36.1	51.9	12.0
	80歳以上	100.0	28.9	55.1	16.0
性 別	男性	100.0	39.6	54.5	6.1
	女性	100.0	34.6	57.7	7.7
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	45.2	51.9	2.9
	自営業	100.0	29.4	66.4	4.2
	農林漁業	100.0	33.6	53.4	13.0
	家事や育児で在宅	100.0	22.2	69.8	8.0
	学生	100.0	47.3	52.7	0.0
	定年退職などで在宅	100.0	34.5	54.0	11.5
	その他	100.0	26.2	61.7	12.1

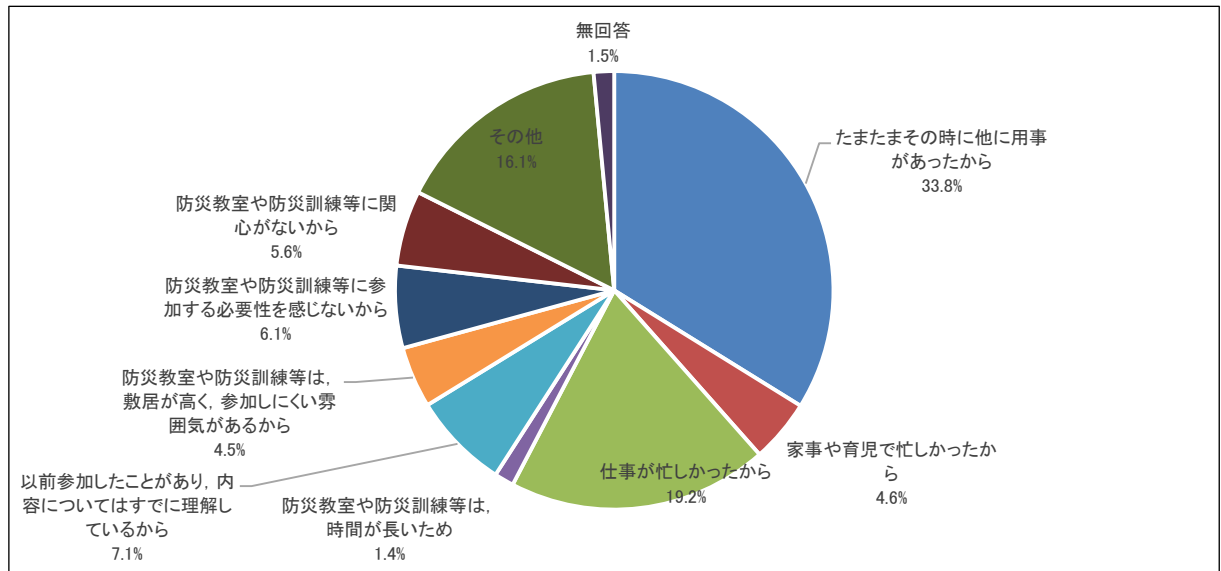
ア 集計結果

- 前回調査と同様、防災教室・防災訓練への参加割合が最も低いのは、「家事や育児で在宅」で「22.2% (21.7%)」、また、「防災教室等が行われたかどうか知らない」割合が最も高いのも、「家事や育児で在宅」で「48.1% (48.8%)」であった。



### 過去1年間における防災教室・防災訓練への参加の有無（問14）

- 防災教室・訓練があることを知りながら、「たまたまその時に他に用事があったから」や、「仕事が忙しかったから」など、時間的な制約を理由として参加しなかったのは、「自営業（73.4%）」が最も高く、次いで「企業・団体勤務（66.4%）」となっている。
- また、「防災教室等の敷居が高く参加しにくい雰囲気があるから」を理由としているのは、「学生（18.9%）」が最も多く、次いで「家事や育児で在宅（9.5%）」となっている。



### 防災活動が行われたのは知っているが参加しなかった理由（問15）

#### イ 有識者による分析等

- 防災教室・防災訓練に参加している人には、
  - ・ 「周りの人々が参加している」と認識している
  - ・ 「県民総ぐるみ運動」を知っている



- ・ 周囲の人々とのつながりがある
- ・ 防災活動へのかかわりがある
- ・ 防災行動へのコスト認知が低い

などの傾向がある一方で、自分自身が防災に対して肯定的な考えをとっているかどうかは寄与していなかった。

○ 特に、「家事や育児で在宅」や、「企業・団体勤務」にあつては、「周りの人々が参加している」という認識が寄与している一方で、自然災害への関心よりも、仕事や家計への関心が優先していることから、防災行動へのコスト認知が高いことが推測される。

○ 加えて、この層は、地域とのつながりが比較的薄く、町内で防災活動が活発に行われていても気づいていない可能性がある。

以上のことが、前回調査と同様に分かった。

## 《参考》H28（8月調査）の分析結果を踏まえたH29年度の取組

### 【市町と連携した防災教室・訓練の周知】

～ 市町と連携し、町内で行われている防災教室・訓練の情報を、県のポータルサイトのほか、回覧板の更なる活用などによって周知の徹底を図るとともに、県の実施する「一斉地震防災訓練」について、市町の広報紙に掲載することにより、参加を呼び掛ける。

### 【一斉防災教室・一斉地震防災訓練の実施】

～ 県の防災教室・一斉地震防災訓練の継続実施により、勤務先や地域における参加者の増加を図る。

### 【「みんなで減災」推進大使による出前講座等】

～ 市町主催の防災教室や、地域で行われる防災の出前講座等において、「みんなで減災」推進大使の積極的な活用を促す。

### 【企業訪問】

～ 県内企業を訪問して経営者層に対し、従業員対象の防災教室・訓練を開催してもらおうよう、働きかけを行う。（H28年度～）

### 【手間や労力のかからない防災教室の教材の作成】

～ 県のポータルサイトを、自分で学ぶことができ、手間や労力のかからない教材として改良を加える。

### 【防災活動に関する女性のリーダーの育成】

～ 子育て世代等が、コミュニティを通じて学べる機会を作り出していくため、主として女性が参画する団体・サークル等を対象に、防災活動のリーダーを育成する。

(4) 【行動目標】 非常持出品を準備するなど災害に「備える」

成果指標項目	調査結果				H32(目標)
	H26	H27(10月)	H28(8月)	H29(2月)	
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	<b>67.6%</b>	60.0%

○ 非常持出品を用意している人の割合の内訳 (単位: %)

		全体	用意している	用意していない	無回答
全体		100.0	67.6	28.7	3.7
年代別	20代	100.0	51.2	48.3	0.5
	30代	100.0	55.5	43.7	0.8
	40代	100.0	68.7	30.4	0.9
	50代	100.0	67.6	29.6	2.8
	60代	100.0	70.5	26.6	2.9
	70代	100.0	75.5	18.3	6.2
	80歳以上	100.0	65.1	18.5	16.4
性別	男性	100.0	70.0	27.0	3.0
	女性	100.0	65.5	30.1	4.4
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	64.4	34.2	1.4
	自営業	100.0	68.7	26.1	5.2
	農林漁業	100.0	74.0	19.6	6.4
	家事や育児で在宅	100.0	68.0	30.4	1.6
	学生	100.0	56.0	44.0	0.0
	定年退職などで在宅	100.0	73.4	20.2	6.4
	その他	100.0	66.5	25.7	7.8

ア 集計結果

- 非常持出品を用意している人の割合は、さらに伸び、学生や単身者の多い「20代 (51.2%)」や「30代 (55.5%)」を除くと、どの生活形態においても平均値以上となっており、男女の差異もほとんどない。

イ 有識者による分析等

- 非常持出品を用意している人には、
- ・ 「みんなが災害に対する備えを行っている」と認識している
  - ・ 「災害への備えを行うことは、社会的に望まれている」と認識している
  - ・ 「県民総ぐるみ運動」を知っている
- 傾向があった。
- 一方で、備えを行うことについて、コストがかかるという認識や、役に立つという認識は影響していなかった。
- なお、年齢が低いほど、また、独居者は、備えていない傾向にあった。

《参考》H28（8月調査）の分析結果を踏まえたH29年度の取組

**【テレビ・ラジオ等報道機関との連携】**

～ 報道機関と連携した取組の中で、テレビ、ラジオ等により「多くの県民が非常持出品を用意している」という事実を周知する。

**【防災フェアの実施】**

～ 防災フェアを継続して実施し、小売店舗等、日常生活に密着した場所などで「備え」につながる啓発を進める。なお、協力店舗等の情報について、市町の広報紙に掲載してもらおうなど、市町と連携したフェアの実施に努める。

# 調 査 票

I あなたのことについてお尋ねします

問1 お住まいの市区町名をお答えください。(○は1つ)

1 中区	9 呉市	17 大竹市	25 坂町
2 東区	10 竹原市	18 東広島市	26 安芸太田町
3 南区	11 三原市	19 廿日市市	27 北広島町
4 西区	12 尾道市	20 安芸高田市	28 大崎上島町
5 安佐南区	13 福山市	21 江田島市	29 世羅町
6 安佐北区	14 府中市	22 府中町	30 神石高原町
7 安芸区	15 三次市	23 海田町	
8 佐伯区	16 庄原市	24 熊野町	

問2 お住まいのある場所は次のどれに当たりますか。

(1) お住まいは次のどの地域にありますか。(○は1つ)

- 1 沿岸部
- 2 島嶼部
- 3 内陸部・山間部
- 4 その他 ( )

(2) お住まいの場所や周囲の状況について、お答えください。(○はいくつでも)

- 1 なだらかな山の裾野にある
- 2 近くに急峻な山がある
- 3 山に挟まれた谷間にある
- 4 川の側にある
- 5 市街地にある
- 6 海沿いにある
- 7 周囲の地形は平坦である

問3 あなたの年齢はおいくつですか。(平成28年4月1日時点)

( ) 歳

問4 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 男性
- 2 女性

**問5** 主としてどのような生活形態ですか。（○は1つ）

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員，パート，派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる
- 3 農・林・漁業を営んでいる
- 4 家事や育児などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

**問6** あなたは現在，次のような地域のグループや団体に所属していますか。所属しているものに○を付けてください。（○はいくつでも）

- 1 公民館やコミュニティセンターで活動している子育てサークルや幼児サークル
- 2 公民館やコミュニティセンターで活動している趣味のサークルやグループ
- 3 公民館以外のサークルやグループ
- 4 地域のボランティア団体
- 5 女性会・婦人会
- 6 敬老会・シニアクラブ
- 7 その他（具体的に ）
- 8 上記のどれにも所属していない

**問7** あなたのお住まいは次のどれに当たりますか。住宅の種類の番号と，耐震性の有無等についても，○をつけてください。

なお，3，4の場合は（ ）欄に階数を数字で記入してください。

住宅の種類		耐震性の有無等		
1	一戸建て住宅（木造住宅）	有	無	分からない
2	一戸建て住宅（鉄骨造住宅）	有	無	分からない
3	2階建て以下の集合住宅の（ ）階	有	無	分からない
4	3階建て以上の集合住宅の（ ）階	有	無	分からない



問 12 あなたは、「広島県」に愛着がありますか。(○は1つ)

- 1 まったく愛着がない
- 2 どちらかといえば愛着がない
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば愛着がある
- 5 とても愛着がある

問 13 ここ最近のあなたの関心事項は何ですか。下記に挙げるもののうち、最も関心のあるものから3つを選び、回答欄にその番号を記入してください。

- 1 家計の状態や経済的な暮らし向き
- 2 仕事のこと
- 3 家族や家庭のこと
- 4 家族以外の友人など、対人関係のこと
- 5 趣味の活動や習い事など、余暇活動のこと
- 6 自分の健康や病気、精神的な不安のこと
- 7 将来の進路や生活のこと
- 8 地域に関すること
- 9 社会で起きている様々な問題
- 10 自然災害
- 11 その他(具体的に )

<回答欄>

1 位	2 位	3 位

問 14 あなたがよく、テレビ・ラジオを視聴するのは、どの時間帯ですか。平日及び土曜・日曜日でそれぞれ該当する時間帯に○を付けてください。(○はいくつでも)

時間帯	平 日		土曜・日曜日	
	テレビ	ラジオ	テレビ	ラジオ
1 早朝 ~ 午前9時頃				
2 午前9時頃 ~ 正午頃				
3 正午頃 ~ 午後3時頃				
4 午後3時頃 ~ 午後7時頃				
5 午後7時頃 ~ 午後10時頃				
6 午後10時以降				



問 15 あなたがよく視聴する，テレビ・ラジオの番組はどの種別のものですか。  
(○はいくつでも)

- 1 情報バラエティ番組
- 2 ニュース番組
- 3 ドキュメンタリー番組
- 4 その他 ( )

問 16 問 15 で回答したテレビ・ラジオの番組において，普段からの災害への備えに関するコーナーを視たり聴いたりしたことはありますか。(○はひとつ)

- 1 視たり聴いたりしたことがあり，印象に残ったコーナーもある
- 2 視たり聴いたりしたことはあるが，特に印象に残ったコーナーはない
- 3 視たり聴いたりしたことはない

↓

【よろしければ，印象に残ったコーナーについてお書きください】(記憶の範囲で結構です)

## Ⅱ 次に、あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 あなたは、自然災害や防災・減災といった事柄にどれくらい関心がありますか。  
(○は1つ)

- 1 まったく関心がない
- 2 少しは関心がある
- 3 かなり関心がある
- 4 とても関心がある

問2 あなたはふだん、次の災害が来ることについてどれくらい心配していますか。  
各項目について該当する番号1つを○で囲んでください。

	心 配 で は な い	ま っ た く 心 配 で あ る	心 配 で あ る 少 し は	心 配 で あ る か な り	心 配 で あ る 非 常 に
震度6～7の地震（阪神・淡路大震災の大きさ。立っていることができず、飛ばされることもあり、地割れや家屋の倒壊が起きる）	1	2	3	4	
震度4～5の地震（ものにつかまらなると歩けず、家具が倒れることがある）	1	2	3	4	
土砂災害	1	2	3	4	
暴風や竜巻による風害 （人や物が飛ばされる、塩害など）	1	2	3	4	
台風や豪雨による水害（高潮、河川の氾濫、家屋の浸水、耕地の冠水、堤防の決壊など）	1	2	3	4	
津波による被害	1	2	3	4	
豪雪・雪崩による雪害	1	2	3	4	

問3 あなたやあなたのご家族は、これまで、災害によって何らかの被害（怪我、物損、2日以上の避難生活など）を受けたことがありますか。(○は1つ)

- 1 まったくない
- 2 それほど大きくはないが、被害を受けたことがある
- 3 比較的大きな被害を受けたことがある
- 4 非常に大きな被害を受けたことがある

問4 次に、災害や防災・減災に関する様々な考え方を示しています。これらの考え方は、あなた自身のお考えにどの程度あてはまりますか。各項目について該当する番号1つを○で囲んでください。

	い あてはまら ない	ま ったく あてはま らない	あ てはま る 少 し	あ てはま る か な り	あ てはま る 非 常 に
1人1人が災害への備えをしっかりとしておくことは重要だ	1		2	3	4
災害への備えをするかどうかは個人の自由だ	1		2	3	4
災害への備えは、「自分の命を自分で守る」ために行うものだ	1		2	3	4
災害への備えを行うことは、社会の一員としての義務だ	1		2	3	4
災害への備えをしておかなければ、地域の人々に迷惑をかけることになる	1		2	3	4
自分の居住地域で災害が起きたら、その時はその時のことだ	1		2	3	4
災害への備えは、自分にとって大切な人々を悲しませないようにするために行うものだ	1		2	3	4
いざという時、家族や親しい人々を助けることができるようにするためにも、備えが必要だ	1		2	3	4
災害に備えることに時間や手間を費やすのは無駄な気がする	1		2	3	4
気象警報が発表されても、結果的には大きな災害が来ないことが多い	1		2	3	4
広島県は、他の県に比べると災害が少ないと思う	1		2	3	4

問5 あなたがお住まいの町内では、町ぐるみの防災活動がどれくらい盛んですか。  
(○は1つ)

- 1 まったく盛んではない
- 2 盛んとは言えないが、たまに防災活動をやっている
- 3 どちらかといえば盛んな方だ
- 4 かなり盛んな方だ
- 5 わからない

**問6 あなたの住んでいる場所で、どのような災害の危険性が想定されているかご存知ですか。(7または8以外は、○はいくつでも)**

\* 県の防災 Web や、市町のハザードマップなどで災害危険箇所を公開しています。

- |                  |   |       |
|------------------|---|-------|
| 1 地震の危険性         | } | → 問7へ |
| 2 津波で浸水する危険性     |   |       |
| 3 川の氾濫による浸水の危険性  |   |       |
| 4 内水氾濫※による浸水の危険性 |   |       |
| 5 高潮による浸水の危険性    |   |       |
| 6 土砂災害の危険性       |   |       |
| 7 災害の危険性はない      |   | → 問8へ |
| 8 どんな危険性があるか知らない |   | → 問9へ |

※ 川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより、河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること

**問7 問6で「1～6」と回答した人にお尋ねします。**

**(1) 災害の危険性は、どのようなきっかけで知りましたか。(○はいくつでも)**

- |                                  |       |   |        |
|----------------------------------|-------|---|--------|
| 1 自分で調べた                         | →(2)へ | } | → (3)へ |
| 2 家族に聞いた(話し合った)                  |       |   |        |
| 3 地域の方(個人, 自主防災組織, 消防団)から教えてもらった |       |   |        |
| 4 地域の住民ではない友人や知人から教えてもらった        |       |   |        |
| 5 市役所(町役場)の人から聞いた                |       |   |        |
| 6 職場で教えてもらった                     |       |   |        |
| 7 学校で教えてもらった                     |       |   |        |
| 8 自ら災害を体験した                      |       |   |        |
| 9 家族(親戚)・知人が災害を体験した              |       |   |        |
| 10 その他 ( )                       |       |   |        |

(2) 問7の(1)で「1 自分で調べた」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性を知ろうと思った大きなきっかけは何ですか。数字を選んで回答欄にお書きください。(3つまで)

- 1 平成26年8月に、広島市で大規模災害があったから
- 2 近年、各地で災害が起きているから
- 3 防災教室、出前講座、防災訓練、防災イベントで教わったから
- 4 子どもが学校で確認するよう教わったから
- 5 テレビ、新聞、ラジオなどで見聞きしたから
- 6 インターネット上の記事や情報を見たから
- 7 県・市町のホームページ、広報誌、広報番組で見聞きしたから
- 8 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を知ったから
- 9 自主防災組織や町内の人から勧められたから
- 10 市役所(町役場)の人から勧められたから
- 11 自分が災害を経験したから
- 12 家族(親戚)・知人が災害を体験したから
- 13 職場で勧められたから
- 14 地域の住民ではない友人や知人から勧められたから
- 15 その他( )

回答欄		

(3) 問7の(1)で「2~10」と回答した人にお尋ねします。

災害の危険性を確認した方法をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ※
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ※
- 3 県の防災Webや市町のホームページなどで公開している土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域・特別警戒区域、洪水・高潮・津波浸水想定区域等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 実際に地域を歩いてみた
- 6 その他( )

※ 自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

**問 8 問 6 で「7 災害の危険性はない」と回答した人にお尋ねします。  
災害の危険性はないとされた理由は何ですか。(○は 1 つ)**

- 1 ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性がないことを確認している他、  
家屋の耐震化や家具の固定など、必要な備えを行っているから
- 2 家屋の耐震化や家具の固定などの備えは行っていないが、ハザードマップや  
実際に地域を歩いて危険性がないことを確認しているから
- 3 ハザードマップや実際に地域を歩いて危険性を確認するなどとはしていないが、  
これまで近親者で、災害に遭った人はいないから
- 4 住んでいる地域で災害が起こっていないから
- 5 特に根拠はない
- 6 その他 ( )

**問 9 問 6 で「8 どんな危険性があるか知らない」と回答した人にお尋ねします。  
危険性を知らない理由をお答えください。(○はいくつでも)**

- 1 知りたいが、誰(どこ)に聞いたらよいか分からない
- 2 知りたいが、忙しくて確認する時間がない
- 3 知りたいが、調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 危険性を確認する必要性を感じない
- 5 災害が起きたらその時はその時だと思っている
- 6 その他 ( )

問 10 台風の接近などによる、災害の危険性や避難に関する情報などについて、次のどこから入手しますか。下記 1～13 の中から、当てはまる数字をお選びください。（3 つまで）

- |                                  |                      |
|----------------------------------|----------------------|
| 1 テレビ（天気予報を含む）                   | 7 ツイッターやフェイスブックなどSNS |
| 2 テレビのデータ放送※                     | 8 市町の広報車             |
| 3 ラジオ                            | 9 町内会や自主防災組織から       |
| 4 インターネット<br>（県防災Web、気象庁ホームページ等） | 10 消防署や消防団から         |
| 5 県や市町の防災情報メール                   | 11 家族、友人、近所の方から      |
| 6 防災行政無線                         | 12 入手しない             |
|                                  | 13 その他（ ）            |

※ テレビのリモコンの d ボタンを押すと、雨量・水位などの観測データや気象予警報、土砂災害警戒情報などの情報を見たいときにいつでも見ることができるサービス

回答欄		

問 11 あなたは、インターネットにつながったパソコンもしくは携帯電話・スマートフォンを持っていますか。

- 1 持っている → 問 12 へ  
2 持っていない → 問 14 へ

問 12 問 11 で「1 持っている」と回答した人にお尋ねします。

県及び市町では、登録者に防災情報メール※をお送りしています。

このことを、ご存じですか。（○は 1 つ）

※ 大雨や洪水に関する注意報や警報、土砂災害警戒情報及び地域の雨量などの情報を防災情報メールで登録者の携帯電話、スマートフォンなどにお知らせしています。防災情報メールの登録方法については、県防災 Web に掲載しています。

- 1 知っており、登録もしている → 問 14 へ  
2 知っているが、登録していない → 問 13 へ  
3 知らない  
4 知らなかったが、今後登録したい } → 問 14 へ

**問 13** 問 12 で「2 知っているが、登録していない」と回答した人にお尋ねします。  
その理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 登録方法を知らないから
- 2 登録方法が複雑だから
- 3 防災情報アプリなど、他の入手方法があるから
- 4 住んでいる場所は安全だから登録する必要性がない
- 5 役に立たないから (情報が少ないから)
- 6 その他 ( )

**問 14** あなたは、過去 1 年間に、ご自宅、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 地域の防災教室や防災訓練等に参加した
  - 2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等に参加した
  - 3 昨年 6 月頃、同封の「一斉防災教室」教材で学んだ、若しくは、  
1 1 月に実施した「一斉地震防災訓練(※)」に参加した
  - 4 同封の教材により、今回、身の周りの災害危険箇所や避難場所を確認した。
  - 5 防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない → 問15へ
  - 6 防災教室や防災訓練等が行われたかどうか知らない → 問16へ
- } 問 17 へ

※ 一斉地震防災訓練：昨年 11 月に行った、地震から命を守るための行動をとる訓練

**問 15** 問 14 で「5 防災教室や防災訓練等が行われたのは知っているが参加していない」と回答した人にお尋ねします。

防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。(○は1つ)

- 1 たまたまその時に他に用事があったから
- 2 家事や育児で忙しかったから
- 3 仕事が忙しかったから
- 4 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 5 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 6 防災教室や防災訓練等は、敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 7 防災教室や防災訓練等に参加する必要性を感じないから
- 8 防災教室や防災訓練等に関心がないから
- 9 その他 ( )

\* 社会福祉施設等へ入所しているため。体調不良のため 等



問 16 問 14 で「6 防災教室や防災訓練が行われたかどうか知らない」と回答した人にお尋ねします。開催されることを知っていれば、参加されましたか。  
(○は1つ)

- 1 参加した
- 2 参加しなかった

問 17 今後実施される防災教室や防災訓練等を知る上で、有効な告知方法は何だと思  
いますか。数字を選んで回答欄にお書きください。(3つまで)

- |  |   |          |
|--|---|----------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テレビ</li> <li>2 新聞</li> <li>3 フリーペーパー, タウン情報誌等</li> </ol>  | } | → 問 19 へ |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>4 町内会の回覧</li> </ol>   | } | → 問 18 へ |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>5 近所・知人からの口コミ</li> <li>6 県または市町のホームページ等</li> <li>7 県または市町の広報誌</li> <li>8 ケーブルテレビ</li> <li>9 市町の防災行政無線</li> <li>10 職場, 学校を通じた周知</li> <li>11 その他 (</li> </ol> | } | → 問 19 へ |

回答欄		

) → 問 19 へ

問 18 問 17 で「4 町内会の回覧」と回答した人にお尋ねします。町内会の回覧は  
どれくらいの頻度でありますか。

- 1 1か月に1回程度
- 2 1か月に2～3回程度
- 3 頻繁にある
- 4 その他 ( )



問 21 次の各項目について、該当する番号 1 つを○で囲んでください。

	ま た く い ない	少 し は い る	か な り い る	ほ ぼ 全 員
あなたの親しい人たちの中に、災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域では災害への備えをしている人はどれくらいいますか。	1	2	3	4
広島県には災害への備えをしている人がどれくらいいると思いますか。	1	2	3	4

問 22 次の各項目について、該当する番号 1 つを○で囲んでください。

	そ う 思 わ な い	そ う 思 う や や	そ う 思 う か な り	そ う 思 う ま た く
あなたと親しい人たちは、あなたに災害への備えをしてほしいと期待していると思いますか。	1	2	3	4
あなたがお住いの地域の人々は、皆（あなたを含む）が災害への備えをすることを望んでいると思いますか。	1	2	3	4
災害への備えをすることは、社会的に望ましい行為だと思いますか。	1	2	3	4

問 23 災害への備えについて、あなたはどのように思いますか。下に挙げる考えに同意するかどうかをお答えください。該当する番号1つを○で囲んでください。

	同意 しな い	ま っ た く 同 意 し な い	あ ま り 同 意 し な い	か な り 同 意 す る	お お い に 同 意 す る
避難場所や避難経路を確認しておけば、災害のとき困らなくてすむと思う	1		2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品などを準備しておくことは、災害のときに役に立つだろう	1		2	3	4
避難訓練に参加しても、本当の災害のときに役立つとは限らないと思う	1		2	3	4
地域全体で災害に備えておけば、災害時の被害を減らすことができるだろう	1		2	3	4
避難場所や避難経路を確認するのは、正直、面倒だ	1		2	3	4
非常持ち出し用の食料や物品を準備するのは手間や費用がかかって大変だ	1		2	3	4
避難訓練に参加するのはむずかしい	1		2	3	4
自分の地域では、防災活動に取り組むのは困難だ	1		2	3	4

問 24 例年6月～7月の梅雨時期や、秋の台風シーズンにおいては、気象台から市町単位で大雨警報などが発表され、市町からは、避難を求める情報が発令されます。

あなたは、平成28年12月26日から、避難に関する情報が次のように名称が変わったことを御存知ですか。（○は1つ）

	(変更前)	(変更後)
情報 の 名 称	避難指示	避難指示（緊急）
	避難勧告	避難勧告
	避難準備情報	避難準備情報・高齢者等避難開始

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 変更前も知らない

問 25 あなたはふだん、テレビ（または新聞）で災害や防災に関する番組（または記事）があったら、どうしていますか。（○は1つ）

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1 まったく見ない（読まない）  | 3 ときどき見る（読む） |
| 2 たまに見る（読む）ことがある | 4 必ず見る（読む）   |

問 26 あなたはふだん、インターネットで災害や防災に関する情報を得ることがありますか。（○は1つ）

- |          |                |
|----------|----------------|
| 1 まったくない | 4 しょっちゅうある     |
| 2 たまにある  | 5 インターネットを使わない |
| 3 ときどきある |                |

問 27 あなたはふだん、家族や地域の人々と、災害や防災に関する話をすることがありますか。（○は1つ）

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 まったくない        | 3 ときどき災害に関する話をする   |
| 2 たまに災害に関する話をする | 4 しょっちゅう災害に関する話をする |

問 28 県では、平成 27 年 4 月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。（○は1つ）

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 行動目標※を含めて、知っていた      | } → 問 29 へ<br>た<br>→ 問 30 へ |
| 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった |                             |
| 3 まったく知らなかった           |                             |

※5つの行動目標

【災害から命を守るための行動】

1 「知る」 身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の

2 「察知する」 危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。

3 「行動する」 災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」 学校、職場、地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。

5 「備える」 非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進め

問 29 問 28 で「1 行動目標を含めて、知っていた」と回答した人にお尋ねします。  
この運動を何で知りましたか。(〇はいくつでも)

- 1 地域の方(個人, 自主防災組織, 消防団など)から教えてもらった
- 2 市役所(町役場)の人から聞いた
- 3 職場で聞いた
- 4 学校からの配布資料(チラシ等)
- 5 コンビニ等県政情報ラック(チラシ等)
- 6 県のホームページ
- 7 出前講座, 防災教室, 防災訓練など
- 8 県広報誌
- 9 県広報番組(テレビ)
- 10 県公式 SNS(フェイスブック・ツイッター)
- 11 街中などにある電子掲示板(デジタルサイネージ)
- 12 テレビ・ラジオ等の情報番組
- 13 テレビ・ラジオ等の報道番組や新聞
- 14 その他( )

問 30 県では、災害から命を守るために、県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かり易く掲載した、ホームページ「みんなで減災 はじめの一步」(※同封のチラシ参照)を開設しています。このホームページについてご存知ですか。(〇は1つ)

- 1 知っており、利用したことがある
- 2 聞いたことはあるが、利用したことはない
- 3 聞いたことがない

問 31 県では、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の推進役として、テレビ・ラジオ各局の気象予報士・キャスターの方に「みんなで減災 推進大使」(※同封の「～『みんなで減災』推進大使のみなさん～」参照)として、活動していただいていることをご存知ですか。(〇は1つ)

- 1 知っている → 問 32 へ
  - 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
  - 3 聞いたことがない
- } → 問 33 へ

問 32 問 31 で「知っている」と回答した人にお尋ねします。「みんなで減災 推進大使」を何で知りましたか。(○は1つ)

- 1 テレビ・ラジオ等の、推進大使本人が出演している番組
- 2 防災フェア等のイベントでの講演
- 3 ホームページ
- 4 新聞等
- 5 その他 ( )

問 33 防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。